



アカウミガメの産卵



砂浜で産卵するアカウミガメ。日本で産卵するウミガメは3種いるが、本土で産卵するのはこの種だけ

子を導く黒潮流れる日本で

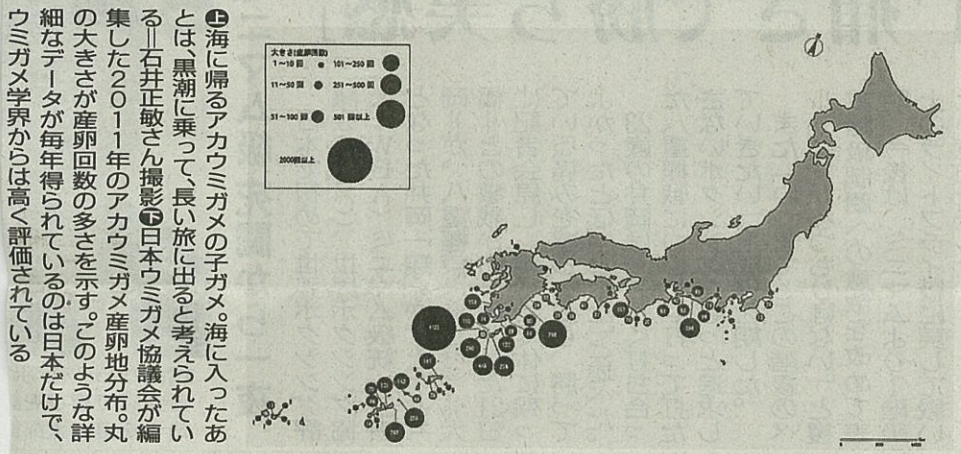


梅雨の頃である。何となくじめじめして、蒸し暑く、不快な季節である。しかし、西日本の里地では、あちこちで田植えをする百姓さんの姿が見られる。梅雨は日本の稲作に欠かせない。ちょうどこの頃、浜辺ではアカウミガメの産卵が見られる。

ウミガメの産卵する砂浜はどこでもいいというわけではない。静かで暗い海岸でしか産まないとも言われているが、そう単純なものではない。90年代以降になって、ようやく北太平洋のアカウミガメの産卵地が明らかになってきた。なんと日本の沖縄から関東にかけての太平洋岸のみ産卵するのである。アオウミガメやタイマイという他の種のウミガメはもっと南方の島々に産卵する砂浜があるのに、このアカウミガメは北太平洋

において日本でしか産卵しないのである。30歳を過ぎたばかりの頃、日本生命財団から助成金をいただき、台湾に調査に出かけたことがある。もちろん、ウミガメの産卵地を探しに。台湾にも砂浜は多い。私は列車とバスを乗り継いで、台湾の海岸線を一周した。警察につかまったり、犬に追いかけられたりと、苦労を重ねた調査だった。ところが、浜を歩けども歩けども、ウミガメの産卵した痕跡は見当たらない。浜を歩いている老人にも聞き取りをしたが、どうもウミガメの産卵情報はない。台湾にはアカウミガメの大産卵地があるという私の仮説は打ち砕かれたのだ。

アカウミガメが産卵地として台湾を嫌うのか？ それとも、台湾の人たちがアカウミガメの卵を食べつくしたので、いなくなったのか？ いろいろと新たな考えを抱いたが、大変なのは前述した財団への報告書である。産卵地がなかったのだから、このプロジェクトは失敗したようなものだ。書ける内容もあまりない。報告書はどうしても薄いものになってしまった。でも、自信をもってアカウミガメは台湾で産卵しないと断言できるようになったことは大きかった。その後、北太平洋の他の国でも、産卵していないことがわかった。じゃあ、アカウミガメは日本のどこで産卵するのだ？ こんな質問に研究者は答えることはできない。狭い国、日本といえども、海岸線は長い。その全域をウミガメの産卵痕跡を求めて歩きまわることなど、昨今の競争原理に追われ



海に帰るアカウミガメの子ガメ。海に入ったあとは、黒潮に乗って、長い旅に出ると考えられている。右井正敏さん撮影。日本ウミガメ協議会が編集した2011年のアカウミガメ産卵地分布。丸の大きさが産卵回数の多さを示す。このような詳細なデータが毎年得られているのは日本だけで、ウミガメ学界からは高く評価されている。

亀崎直樹 (かめざき・なおき)
1956年生まれ。神戸市立須磨海浜水族園園長。東京大学大学院農学生命科学研究科客員教授、NPO法人日本ウミガメ協議会会長を兼務。専門はウミガメを中心とした海洋生物学。

次回7月19日